

佐野つとむ闘病記

突然の入院で発行日の遅れと「味と腕」434回目にして初の休業。

2年ほど前から予感があった。ときどき「俺、よく潰れないよな」と、自分で自分に語りかけていた。胃の中が渦を巻くようなことや、背中に張りを感じても仕事のやり過ぎだと思い込んでいた。

それが1カ月ほど前、出勤途中急に胸が圧迫され、胃がモヤモヤと気持ちが悪くなって、右側の肩が猛烈に張ってきた。しばらく立ち止っていたが、電車の椅子に座ると同時に病状は消え、その日のことは忘れていた。

先月16日、朝の運動が終ったとき、軽く心臓に負担がかかり、食事が終る頃には収まったが、念のため翌日さそう内科・呼吸器科クリニックで心電図をとったら、明日静岡市立静岡病院へ行くようにと、紹介状を渡される。

11時に入って終わったのが17

時30分。「狭心症」の疑いで即入院宣告。明日は奈良の石工左野勝司氏と面談後、最中の白玉屋榮壽取材の予定が入っているし、25日はTOMO3月号と社会人大学チラシの原稿入稿日、1カ月延してもらうよう頼むが許可下りず。入院。

夕食を見ただけで酒は欲しいと思わなかったが、問題はタバコで、食事の後と、こうして原稿を書いているとき、ひらめきが出てこない。今日で15日禁煙しているが、止められる自信はない。こうなると`意思、なんぞという単純なことではなく、寺へ入って禅を組むか、精神力との戦いでしかなさそうだ。

こんな駄文を書いたのは、虫にさされても病院へ行くほどの病院好き[?]で、今回も抵抗なく

行ったのだが、怖がる人なら、おそらくこの程度の症状なら行かない人の方が多いだろうと思い、警告のために掲載した。死因のトップであるガン検診受診率でさえ、職場と自治体を合わせても20~30%程度でしかない。

今年の社会人大学の講師`ささめや ゆき、さんから、「すばる」の表紙を飾った絵の中から60点を一冊にした「ヘッセの夜 カミュの朝」を贈呈していただいた。

古今東西の文学、映画、演劇をテーマに描かれた感性あふれる絵と、的を得た要約文に、たいくつなベッドの上で癒された。

その中から、今月の表紙に「二十四の瞳」[壺井栄]を転載させていただいた。

文・体文協 佐野つとむ



TSUTOMU SANO
PRESIDENT OF TAIBUNKYO

SANO'S SELECT!



ささめや ゆき「ヘッセの夜 カミュの朝」より

二十四の瞳

〈この美しい姉妹たちにとって不幸へ向う以外いかなる旅立ちもありえないのであった〉という詩の一節を思い出した。松江もソンキも竹一も富士子もみんな小豆島の岬の分校で無邪気な小学一年生のままであったなら、幸せだったのだ。人生の一番いい時に呪文をかけられないかしら「時間よとまれ」。